

<b>第24回 第5分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年6月5日 午後7時00分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 渡辺・片谷
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：21名 （区民委員：14名 学識委員：2名 区職員：5名）			
配付資料 第23回会議録 提言素案 提言書構成（案） 第3回全体会「提言書提出」（予定） 今後の予定について  進行内容 1 はじめに 2 編集部会の報告 3 提言素案のまとめ 4 今後の予定について 5 第3回全体会について 6 学識委員より 7 まとめ 8 事務連絡  会議内容 【発言者】：区民委員、：学識委員、：区職員  1 はじめに  ： 配付資料の確認（5点） 本日の進め方ですが、はじめに編集部会の報告を橋本先生からお願いします。その後、提言素案について、各執筆者の方から簡単に経過を報告していただき、皆さんにご承認いただければと思います。そして、今後の区民会議の予定について説明させていただきます。そのあと、6月25日第3回全体会（提言提出）について、ワーキンググループの区民委員さんに報告していただき、最後に両先生からお話をお願いしたいと思います。			

では、編集部会について、橋本先生からご報告をよろしくお願いします。

## 2 編集部会の報告

- : 先週、編集部会があり、各原稿を編集委員が細かいところから全体の構成等も含めて確認をしました。お手元の資料で、目次になっているものが一番わかりやすいと思います。全体的には第1、2、3、4という大項目の設定の中で、第5分科会で関係のあるところは、第3項目「まちの記憶の再生と環境の創造」と、第4項目「ひろがる、新宿的ライフスタイル」の部分です。特に第4項目は、第5分科会で話し合いをした、人とソフトウェアから新宿をとらえて、それを10年後20年後、こういった形で発見していくのかをふまえて、提案をするということを盛り込ませていただきました。最終的には、読みやすさを追求するということと、皆さんの意見をそのまま尊重して入れるということの話し合いが主だったと思います。細かいところでは用語の使い方などで多少の確認がありましたが、第5分科会は特にそういったことはありませんでした。また、編集部会でかなり問題になったのは、これがすべての提言書ということではなく、次の活動にどのように受け渡していくかということが、とても大切なことだということでした。

## 3 提言素案のまとめ

- : 先生ありがとうございました。では、提言素案のまとめということで、各執筆リーダーの方から各項目で簡単にご報告をいただきたいと思います。内容については、前回の分科会のあとに皆さんからいただいたご意見を基に臨時検討会を開き、その後もさらにメールなどでやり取りをして、最終的にこの原稿になりました。本日は、細かいところまでは検討できませんので、リーダーの方にご報告いただいて皆様にご承認いただければと思いますので、よろしくお願いします。一番目の「新しい才能・文化を常に吸収し続けるまち」ですが、本日お仕事の都合で執筆者の方が欠席となります。こちらの内容につきましては、前回の分科会と臨時検討会で皆さんにいただいた意見を上手にまとめてくださったと思いますので、皆さん読んでいただいて、もし何かありましたら事務局までご連絡ください。次に「歴史の中で結実したホンモノの文化を継承する」ですが、執筆者の方が遅れていらっしゃるのので、その次の「ぶらりと道草したくなる楽しいまち」について先にご説明いただきたいと思います。よろしく願います。
- : 私の書いた原稿ですが、前回の分科会の後に、2回ほど修正する機会がありました。1回目は、臨時検討会の時です。その時私は出席できなかったのですが、メールで、会議に出席した方からご意見をいただく機会がありました。2回目は、編集部会か

らご意見をいただきました。臨時検討会では、出席された方から、主に2つのご意見をいただきました。一つ目が、「今やること」とか「今できること」、あるいは「少し先にやること」、「20年後にやること」という事を分けながら書いた方がわかりやすいのではないかと指摘でしたので、できる範囲で書き直しました。もう一つが、小項目「来街者がまた来たくなるまち」の新宿学のところです。新宿学という地域学ですけども、わかりやすい表現にしたほうがいいということになりました。もう一つ編集部会でのポイントというのがありますのでお話しします。一つ目はタイトルですが、ぶらりという言葉を入れてほしいという提案があり、頭に入れていただき、「ぶらりと道草したくなる楽しいまち」としました。二つ目が、小項目の一番目、「来街者がまた来たくなるまち」、ここに、コンシェルジェやヘブンアーティストイベントといった横文字が入っていますので、これに対して詳しい説明や脚注を入れたほうがいいのかという指摘を受けました。コンシェルジェに関しては括弧書きで、ヘブンアーティストイベントには東京都生活文化局のホームページをピックアップして、それを説明書きという形で対応しました。また、第3分科会からいただいた原稿はそのまま掲載しています。何か意見があれば、出していただければと思います。発表は以上です。

- : どうもありがとうございました。次に「知のネットワーク」のご説明をお願いします。それから小項目に追加の提案がありました。最後の「区民がつくる、区民の区民による、区民のためのメディアを設立します」です。内容としては今までの皆さんのご議論に出てきたことだと思いますが、後ほど提案者ご本人から説明していただきたいと思います。
- : 前回ここで皆さんにお話ししたときに、図書館が前面に出すぎているのではないかとのご感想をいただきましたので、これを全部入れ換えて、将来のあるべき姿、これが重要なのですが、情報化をしないと立ち行かないわけですし、そこに力点をおいてまとめてみました。内容としては前回と変わっていないのですが、もう少しやさしい感じで書きました。印象としてはだいぶ柔らかくしたつもりです。コンシェルジェという言葉は好きではないのですが、日常的に使われるようになったということで、使わせていただきます。情報センターというものをやる場合に新宿区がどのくらいうまくやっていくかが心配なので、そこは少し強めに書きました。このままでは図書館が一向に変わらない心配がありましたので書きました。
- : ありがとうございました。では、残った部分は後ほど執筆者の方がみえたらお願いしたいと思います。次の議題へ進みます。

#### 4 今後の予定について

- : 皆さんには、分科会だけでなく、臨時検討会やメールのやりとり等、いろいろと

ご協力いただき、本当にありがとうございました。では、今後のスケジュールについて、ご説明します。6月25日に皆さんの提言を、区長に提出していただきます。区長はその提言を受理し、皆さんのご意思を最大限に尊重する形で新宿区基本構想審議会に諮問いたします。先日、皆さんに当初11月までだった委員の委嘱期間を来年1月まで延長させてくださいというお手紙をお送りしました。当初は11月に審議会で骨子案をまとめて、区民会議から意見提出していただくように予定していましたが、十分な期間をとって審議し、皆さんにもご意見をいただくには、11月では間に合わないということで、来年1月まで委嘱期間の延長をお願いいたしました。分科会活動としては今回でひと区切りですが、審議会で一定の骨子案が出た段階で、それに対し区民会議より意見提出をしていただきます。そのため、12月から1月頃に分科会を開催する予定です。それが終わってから区民会議解散となりますので、よろしくお願ひします。今のところ、意見提出は、平成19年1月頃を予定しております。次に、基本構想審議会ですが、35名の委員で構成されます。学識経験者として、各分科会の先生に1名ずつお入りいただくことになっておりまして、第5分科会からは廣江先生にご承諾いただきました。また、区民代表として、新宿区民会議の各分科会から1名ずつ入っていただくこととなります。第5分科会からは、皆さんのご了承がいただければ、リーダーにお入りいただきたいと思っているのですがよろしいでしょうか。(拍手、了承)ありがとうございます。その他には、区議会議員7名、地区協議会の各地域から1名ずつ、また各種5団体から1名ずつ、という計35名の構成による基本構想審議会に審議していただくこととなります。では、第3回全体会「提言書の提出」をご覧ください。式次第の内容について、ワーキンググループの区民委員さんからご報告いただきます。

#### 5 第3回全体会について

- : 先日ワーキンググループがありまして、6月25日の式次第について話し合いました。内容については、配付資料のとおりです。全体会終了後、分科会ごとに、記念写真の撮影がありますので、終了後もすぐに帰らず待っていてください。写真撮影終了後に懇親会を、希望者による会費制で開催します。また、第1部の区民委員挨拶の次に各分科会から説明(発表)があります。これは、この1年間やってきたこと、思い出などを各分科会が語るというものです。この発表者を今日決めたいと思います。また、受付も2名決めたいのですが、お手伝いしていただける方はいないでしょうか。
- : 発表は、正味12、3分ということになります。
- : 受付の主な仕事は、どういうものですか。
- : 中間発表会と同じで、名簿を用意しますので、いらっしゃった方にチェックをして

いただいて、資料をお渡しし、着席のご案内をしていただくということです。懇親会の会費の受け取りは、区職員が対応します。

- : それから中間発表会と同じように、区民会議登録証(名札)を持ってきてください。
- : 発表する人ですけど、思い入れの非常にある方っていらっしゃると思うんです。そういった方がされるのがいいかと思います。そういった主張のある方がアピールできる場だと思います。皆さんがアピールできる一番いい場だから、活かしてほしいんです。それをここで議論するだけじゃなくて、せっかくアピールできる場だから、もったいないと思います。
- : 中心になって執筆されたAさんとBさんがいいのではないのでしょうか。(全員了承)
- : Aさんは、今日欠席なので、事務局から頼んでもらえませんか。
- : 事務局からお願いですが、万一、片方が欠席だと、お一人だけになってしまうので、3人体制でいかがでしょうか。
- : では、Cさんにもお願いしましょう。(全員了承)
- : ではAさんには、皆さんがぜひお願いしたいということで事務局からご連絡します。発表内容については、発表者とリーダーに一任ということで皆さんよろしいですか。(拍手で承認)
- : 受付は、Dさん、Eさん、Fさんに決まりました。
- : ではよろしくお願ひします。当日、全体会終了後に記念写真を撮ります。また、懇親会には、廣江先生と橋本先生も参加していただけるそうですので、皆さんもご都合がつけばぜひご参加ください。終了後、ホールのスクリーンに委員の方のお名前を流しますので、特に支障のある方は事務局へ申し出てください。

### 3 提言素案のまとめ (続き)

- : 大変な作業をしていただいたわけですが、見てわかりますように改行が左寄せになっているとか、読みやすくするには、多少手直しする必要があると思います。それから一点、今気がついたのですが、「ぶらりと道草したくなる楽しいまち」の小項目のところはTMOと具体的に入っていますが、これは、無いといけないのですか。
- : TMOって何ですか。
- : タウン・マネージメント・オーガナイゼーションといいまして、まちづくり組織なのですが、私自身は、前から無意味なものだという反対の対場を取っています。今この扱いに困ってしまっていて、都市計画法等、まちづくり関連法が変わって、今までのように行政が外で考えたいというものが、行政でやりなさいというように国の方針が変わったんです。これがいいか悪いかという話もあるのですが、現行のTMOも行政がやっているということもあって、いきなり法律が変わって、はしごが外されたらと怒っているところなんですけども、私自身問題だなと思っていたのですが。

- : 質問です。「ひろがる、新宿的ライフスタイル」の、新宿的という表現ですが、「的」を入れた理由というのが何かありますか。
- : 第4項目は私が担当したのですが、皆さんが話し合いをしていた中のエッセンスをどう表現したらいいかということで、昨今流行りでもありますが、LOHAS（ロハス）という言葉があり、新宿にもじりまして、LOSAS（ロサス）としました。そのLOSASというライフスタイルの提案というのが、新宿的まちづくりというような意味で、大項目の括りにしています。
- : 中身はさることながら、「的」という言葉があまり好きじゃない。例えば、新宿のライフスタイルと言ってしまうとかね。
- : 今皆さんの中で新宿のライフスタイルや新宿ライフスタイルと言い切ったほうがいいというご意見ですが、議論をする必要があるのかなという気がします。今まで皆さんと話し合いをしてきたソフトウェアもしくは歴史としての縦軸と、地域としての横軸、それを文化として今まで私たちが話し合ってきたというところと、新宿の一番特徴的なことは、内藤新宿に始まって、江戸時代を通じて、第一線の地域でありえたということですね、これからも10年20年だけでなく、100年先を見つめて考えたということで、扉としての文章を載せたというのが今のこの、LOSASということで入れました。「的」というのがあいまいというご指摘があったんですが、私としては意図的にぼかしています。新宿の特徴というのを出していきたいというのが私「的」でございまして、皆さんの考えていることと違うというのであれば修正する必要があるかと思えます。
- : 私も可能であれば「的」は使わないという考えですから、新宿区という地域をどうやって新宿区民にとってのアイデンティティにしていくかということを考えると、断定した方がいいだろうと私は思います。別に直してもおかしくないですね。
- : 編集部会で承認していただいたのは、新宿的ライフスタイルなのです。第5分科会で新宿ライフスタイルと変更したいといった場合は、編集部会の承認が必要なのかと思います。イメージとしてしか申し上げられないのですが、新宿の様式美としてのライフスタイルということと、新宿ライフスタイルというと新宿限定ですね。渋谷というファッションスタイルがありますが、それは渋谷で流行っている一つの形態として、原宿であっても銀座であっても渋谷的ライフスタイルというのが渋谷カジュアルというものだと思います。新宿的なライフスタイルというのはそこまで定義していないものを指します。
- : 少し広いということですか。新宿というだけでなく新宿に関わる所とかも含めるといいます。
- : そうですね。ぶらりと道草したくなるといった来街者の問題も含めていますのでそういった広がりを持たせています。あくまでイメージですが新宿区民だけでなく新宿にいらっしゃる方も関わっていく、参加していくという形です。そういった意味

で新宿的としました。

- : 新宿ライフスタイルと言うと、どうしても新宿駅周辺をイメージしてしまうことがあるのでほかの方がよいと思います。
- : 受け取り方はいろいろありますが、これはそのまま進めて、ただし、ここについて議論があったことは皆さんが他の場でおっしゃればよいと思います。
- : 良いのではないのでしょうか。好きな人もいれば嫌いな人もいるでしょうから。
- : 広がりがあるのであればそれがかまわないと思います。
- : 承認を頂いたということでもよろしいでしょうか。(了承)
- : では、執筆者の方がみえたので「歴史の中で結実したホンモノの文化を継承する」と「知のネットワーク」の最後の小項目について説明をお願いします。
- : 将来のあるべき姿というのは、もともと10年後20年後ということだったのですが、第3分科会からの原稿を生かそうとしましたので小項目などが増えています。第3分科会の原稿の内容は新宿区の歴史と地形をきちんと位置づけていこうという事が趣旨でした。私たちの商業、産業的観点を入れますと、だいぶ文字数も多くなりますので少し取捨選択をしています。いずれにしても、10年後20年後を現状を抑えて歴史から出発しようという観点を、ここでは色濃く出しました。第3分科会の観点でもあるということをご指摘がありましたが、そこは何とか違和感無く出来たのではないかと思います。土地の記憶という中で歴史的に新宿区が受け継いできた文化や産業といったものをここでは押し出そうということですので、前回の分科会で、これは10年後20年後の話ではないのではないかとのご指摘もあったと思いますが、将来のあるべき姿の最後の三行くらいに一応記述してあります。また、「知のネットワーク」で、最後の小項目は本日提案しました。これについては内容を読んでいただくと今まで分科会で話されてきた趣旨ですが、最初に中間報告でプレゼンした時に私たちの産業、文化、観光というものは情報、流通の上に立ってやっていこうと触れましたように、第5分科会では情報というものの問題をクローズアップしたいということもありましてあえて追加しました。また、「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」については、地域住民と関係する形で商店会の組織のことも加えて欲しいということで、「顧客参加の商店会の新しい波」に入れさせていただいています。
- : 「知のネットワーク」に付け加えられた「区民の、区民による、区民のためのメディア」の部分ですが、ここは趣旨からすると区民が様々な情報の消費者だけではなく作り手であり、情報技術の担い手であるといったことを説明されるわけですね。その時にどうしてそれが可能なのか、どうしてそれが必要なのか、例えばどのような形態が考えられるのかといった事がポイントになると思います。この中には重複がありますので、分量的には3分の1になると思います。その方がわかりやすいので、なるべく整理したほうがいいでしょう。あまり具体的なことばかり書きますと

第5分科会として責任を持って書いている他のところとのバランスが崩れるので、それを念頭に入れておいて、別途議論する際にお出しいただくのが良いかと思えます。

- : 問題はそういうことが可能かどうかですね。私たちは情報の受け手ではありますが、同時に今議論している内容の情報について、どうやって情報発信していくかという立場にもあるわけで、それは知のネットワークの図書館もそのあたりだと思うのです。こういうことが可能かどうかというのは十分な検証はしていないのです。ただ方向として市民メディア、ここでは区民メディアとしていますが自立的な私的メディアが出来てきている傾向もありますし、直感的に出来るのではないかと思っています。
- : 私も今まで分科会に参加してきた経緯もありますし、個人的には十分可能だと思っています。しかし残念なことに日本の団体は誰もが出来るように一般化して、それを公表するというをやっていません。アメリカのNPOのホームページなどではどのようにしたら市民が情報を発信できるかという技術的な手段も含めて全部オープンにしているのです。ですから技術的にも可能だし時代もそのように動いている。そういうことを区民が考えていくことが大切だと議論してきたはずですから、可能性と意味という点で大切だと思います。もう少し整理したほうが説得力のあるものになるのではないかと思います。
- : 全体的に提言の小項目が、あまり十分に議論されていないものもあります。執筆者の意向が強く提言に反映されているように思えます。今まで皆さんが話し合いの素カードや素材シートに書いた将来の夢とか希望をぜひ、審議会に附属資料として、そのまま出して欲しい。
- : 話し合いの素カードや素材シートにいろいろな話がありましたね。今の段階でそれらをもう一度きちんと検証して、中項目・小項目に連動させる必要もあるかと思いました。素材として提出するのは、それはそれで構わないのですが、もし万が一、漏れがあったら最後の段階でおっしゃっていただければいいと思います。
- : 漏れている、漏れていないではなくて、できれば審議会に資料として提出して欲しいということです。個々の内容のすべてを詳しく話されているわけではないので、忙しいなどの理由でこられなくなった方もいらっしゃいますし、編集などをせずにそのまま出して欲しいということです。
- : 私が言ったのは、それは出す方法としては一つあるでしょう、ただし、また新たに出したい意見があればそれを加えましょうということで、なければ今の状態でそのまま出しましょうということです。
- : 私は、せっかくでた話ですから、提出して話し合いの糸口が残れば、いいのではないかと思います。
- : 出すことは全く異存なくて、さらにもう一度、そこに光を当てる必要のあるものが



あれば、そうしなくてはならないのではということです。

- : そこには異存ありません。小項目などを見れば、確かに良いものですが、本当の意味などを十分に議論した上で整理されているわけではありません。このように議論が十分でないものもでてきます。だから漏れているとかそういったことを言っているのではない。ただあまり来られなかった人の意見の中にも、良い意見があるかもしれないから、それはそのまま手を加えず出して欲しいと思います。
- : 私は、リーダー役をおおせつかった時に、出てこなくなった人を引き戻そうとした時期がありました。実際、何人かの人にもお会いしましたが、いかんせん時間がなく皆さんを巻き込んで時間を取らせられないので、限定された条件でやらざるを得ないという事情もありました。
- : 提言書を出した段階でまたそれを見た人が新たに意見を出して、それを吸い上げる仕組みがあるといいですね。
- : 中間発表会でも東京の産業の主軸のひとつである印刷業について、ほとんど触れられていないというご指摘を受けました。話し合いをするにもその道の方がいないので、話し合いをすることが出来ないといったことがありました。
- : 基本構想、基本計画の策定にあたっては、パブリックコメントをかけて、一般の区民の方からコメントを頂く機会は用意いたします。
- : 中間発表会までは、全員にご連絡差し上げていましたよね。いらっしゃらない方々でも、中間発表会にいらしたら、その方からご意見を頂こうという発想で分科会ごとのブースを作ったのです。その後も、区事務局で、メールやファックスで意見を受付したりして、機会は設けて頂いていると思います。
- : 私が言いたかったのは執筆者の熱意によって前面に出てくることについてどう考えるかということです。
- : そのことについて少し話しますと、他の分科会でも全ての項目について話し合うべきという意見も理想として出たのですが、実際には時間的に難しい面もあるという話がありました。私たちはそれなりにできたほうだと思います。これまでも資料はなるべくプリントアウトしたのも渡していますし、私は自分が提案したことあまりこだわってはいません。
- : 全てを否定しているわけではありません。時間も不十分でしっかりと話し合うこともできなかった部分もあるでしょうから、最初の材料を出してくださいということが言いたかったのです。
- : 多分、話としてはそういった場がなかったから、次の課題にしたいということで、これは他の分科会でも問題になっています。言いたいことが言えないから、出てこなくなってしまった方もたくさんいらっしゃるのです。他の分科会でも問題になっているので、私たちとしても次の問題点として上げていかなければいけないことだと思います。もう一つ、誤解していただきたくないことは、これで決定ではなく

て、次の段階で、吸い上げられなかった意見等をどうやって復活させるかということです。先程、区の方からもお話がありましたように、今後も意見等を言う機会は当然ありますのでそういった形で進めていきたいと思えます。不満などは皆さんの中にあると思えます。今の話をもっと議論をしたかったということだと思えます。いろいろな問題がありますが、実は第5分科会だけではなく、他との調整というのもありまして、他の分科会の意見を入れざるを得ないといった事情もありますからこれが限界ではないかと思えます。ただ、議論が十分されないまま進んでいくという問題点は次回までに解決できるようにすべきだと思えます。

: ありがとうございます。事務局においても、いろいろ不手際があったと思えますし、時間が足りないということで議論が不十分というご意見もあるかもしれませんが、皆さんには大変なご苦勞をされて、この原稿をまとめていただきました。第5分科会としては、この提言で皆さんにご了承いただいて提出したいと思うのですが、よろしいでしょうか。(全員了承)

では、一年間の分科会活動の総まとめとして先生方にお話をお願いします。

## 6 学識委員より

:(廣江)長い間、ご苦勞様でした。決して終わりはないと私はいつも思っています。始めが絶えず終わりであり、終わりは絶えず始まりであると思うのです。その中で皆さんにご意見を頂いてきましたけれども、私たちは人の前で意見をきちんと言う教育を受けないできてしまいました。ですから議論の仕方が難しいとか、意見の言い方が難しい。そういったことも少しずつ変えていこうということも今回の区民会議だったと思えます。いろいろ努力されてここまで来たわけですから、これを生かして絶えずまた新しい所にどう行ったらいいかということの様々なご提案やご意見などがあると思えますので、そういうものをもっと広めていこう。そのためにはまず何か形をつくっていかなければ始まらないと私は思っています。まずそういった形を皆さんの大変な努力で作っていただきましたので、これを尊重して、しかし終わりではなくて、具体化していくとか、広げていくとか、もっとそれぞれのテーマについて、区民同士が議論していくことが必要になってきますので、そういった努力を皆さんとやっていければ良いかなと思っています。私はそういう取り組みが必要なのだと思っていて、この区民会議が始まる時に手伝えと言われ、たまたまお会いした区長には「乱暴です」という言い方をしました。なぜ乱暴かといういきなりこういった大きな会議を持つということは誰もが慣れていない訳です。皆さん非常に良くやられたと思えます。その時区長には、でもやらなければいけないことですねと申し上げました。そのため、私もお手伝いすることにしました。できていないことはたくさんあると思えます。しかし、できていないことではなくて、できてい

るところからどうやってもっと新しいことをやっていこうか、そこが創造的な区民だと私は思っています。常に前を向いてもっと視野を広くした議論をどう続けていくのか、その方法とか、そのテーマが見つかっていけばいいと思います。そして、そのテーマが少しずつ具体的になっていって、具体的なものを誰が担って、どう実現していくのか、その主体が区民だと思っています。私は新宿区民ではありませんが、私は私の立場でいろいろ考えていきたいと思っています。そういう意味でいろいろ勉強させていただきました。第5分科会の一員として、大変至らなかったことはあったらと思います。わかっていましたが、私自身は仕方がないと思っていました。そのことでくよくよするよりも何か前進になるものを作っていきたいと思っていました。かなり無理をしているように皆さんの目には映ったと思いますが、正直無理をさせていただきました。それはこれからの発展に期待するという無理だと思うので、皆さんとこれからもっといいものを作っていきたい、本当に区民に支えられる新宿区というものを作っていければいいと思いますし、その中で今日、出させていただいたように一人ひとりが情報の消費者ではなくて、情報を生み出す生み手になり、情報を伝える担い手になるということに努力をしていけたらいいなと思っています。そういう意味でとても有意義な分科会だったと思います。たくさん言わなければならないことはありますが、きりがありませんのでこれくらいにして、これで終わりではありませんということをお願いしておきたいと思っています。

:(橋本)私はコンテンツやメディア運営などの現場を主にやってきたので、皆さんの前で高い所からお話することは、非常に個人的限界がありました。自分としては滅私奉公ということで皆さんの意見を出来るだけ吸い上げて形になるようにやってきたつもりではありますが、如何せん力不足だったかなということも非常に実感しております。その中で、第5分科会の学識委員をさせていただいたことは非常に良かったと思います。皆さんとてもお忙しい中から時間と労力を捻出して、原稿を書いていただいたということは大変価値のあることだと思っています。あとはこの先の実行をどうやっていくかという段階になるのだらうと思っていますので、引き続きサポートできるところはサポートして、自分の力が発揮できる場所があれば、また皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。慣れないところもありましたが皆さんのご尽力のおかげで、何とかここまでこれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。先ほど廣江先生がおっしゃったように、あえて難しいことをやっていく、あえて他の区ではやらないようなことをやっていく、新宿はそういった意味では非常に恵まれたと同時に責任のある地域なのではないかなと実感しています。皆さんには、引き続きご尽力いただければと思っています。長い間、お疲れ様でした。ありがとうございました。

## 7 まとめ

： 区事務局の不便等もあったかと思いますが、リーダーをはじめ委員の皆さんの協力のおかげで、提言をまとめることができました。どうもありがとうございました。まだ解散ではなく、12月～1月頃予定している基本構想審議会への意見提出もありますし、6月25日の全体会もごさいますのでよろしくお願いいたします。

： 進行等につきまして不十分、不慣れなこともあり、皆さんの中に不平不満があったかと思いますが。温かく見守っていただいたおかげで、何とか一年間無事に終わることが出来ました。皆さん大変お忙しい中でのご協力、ご尽力のおかげで第5分科会といたしましても、提言という形でまとめることが出来ました。心から感謝申し上げます。本当に一年間ありがとうございました。

事務的なこととなりますが、6月25日の全体会は、ここにおられる皆さんご出席ということでよろしいですか。また、全体会の案内のチラシを何部か用意してごさいますので、ご近所の方などお誘いあわせの上、ご参加していただければと思います。補足となりますが、交流の場は6月以降も引き続きご利用できます。来年3月まで利用できる予定です。そこには、基本構想審議会の資料等も随時、置いて、区民委員の皆さんが自由に閲覧できるようにしておきます。また、皆さんが自主的に集まって、会議、討議等を行いたい場合にも、会議室として利用していただけます。その場合は、事前に区事務局に連絡して下さい。

： 基本構想審議会の傍聴は出来るのですよね。

： 傍聴は出来ます。では、最後に、リーダーから一言お願いします。

： 短いような長いような感じでしたが、本当に長い間、どうもありがとうございました。私は途中からリーダーという役目を仰せつかって、できるかどうかわからなかったし、本当は引き受けなければ良かったような気もしました。その中で、ご不満も多いかとは思いますが、とりあえず何とか提言までたどり着きました。先生方も最後ではないとおっしゃっていますし、私も決してこれが最後ではないと思います。第5分科会をご縁として、私たちの提案を見届け、また、漏れていた提案を拾いなおして、継続していきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

## 8 事務連絡

- ・ 第3回全体会 6月25日(日)午後1時～4時  
早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

以上